

# Oracle Beehive FAQ

2008 年 12 月

印刷日 : 2009 年 1 月 12 日 10:21 AM

本書は、弊社の一般的な製品の方向性に関する概要を説明するものです。また、情報提供を唯一の目的とするものであり、いかなる契約にも組み込むことはできません。下記の事項は、マテリアルやコード、機能の提供を確約するものではなく、また、購買を決定する際の判断材料とはなりません。オラクルの製品に関して記載されている機能の開発、リリース、および時期については、弊社の裁量により決定いたします。

## Oracle Beehive とはどのようなものですか。

Oracle Beehive は、エンタープライズ・コラボレーションに向けた唯一のセキュアな統合プラットフォームです。ユーザーは、関係者と関連情報に接続して、業務を効果的にコーディネーションできます。また、IT 部門は、Oracle Beehive エンタープライズ・コラボレーション・プラットフォームで標準化を推進しつつ、既存のインフラストラクチャとスキルへの投資を保護することにより、ビジネス・プロセスを改善できます。Oracle Beehive を使用すれば、部門別および全社的なコラボレーション・アプリケーションに対するコンプライアンス・ルールのグローバルな適用、セキュアな監査、および一元管理を実現できます。

## コラボレーションが重要なのはなぜですか。

コラボレーションを必要としない組織はありません。成功するためのコラボレーションを可能にするツールをユーザーに提供するのは、IT 部門の責任です。残念なことに、現在のコラボレーション・ツールはコラボレーション・プロセスから分離していることが多く、ユーザーは不自然な方法でのコラボレーションを余儀なくさせられています。また、それぞれのツールでセキュリティと監査のメカニズムが異なるため、コラボレーション・データを保護することが IT 部門にとって難題となっています。

## Oracle Beehive は何に重点を置いていますか。

Oracle Beehive は、チームや個人、そして組織が新たな情報を作り出し、タイムリーな意思決定をおこなって、最終的に十分な情報を得たうえで行動できるよう支援します。Oracle Beehive は、ユーザーがやり取りする各種手段、そのコラボレーション・ツール、そして情報を組み合わせた独自のモデルに基づく統合コラボレーション環境であり、個人ワークスペースとチーム・ワークスペースの両方を備えたチーム中心プラットフォームを介して、従来のコラボレーション機能を提供します。ユーザーによる情報の入手と共有を可能にしながら、企業の情報ポリシーを適用します。

ユーザーがどのようにグループで協業するかに焦点を合わせることで、IT 部門は、Oracle インフラストラクチャ上に構築され、一元管理されたセキュアな標準環境内で、ユーザー中心アプリケーションをサポートできるようになります。

**Oracle Beehive を使用したコラボレーションの特長は何ですか。**

Oracle Beehive は、統合コラボレーション・プラットフォームを提供します。Oracle Beehive を利用した場合、そのほかのコラボレーション・ツールとは違い、セキュリティとコンプライアンスを強化し、プロセス中心のコラボレーションを実現できます。

**Oracle Beehive は現時点で利用できますか。**

はい。ご利用いただけます。

**Oracle Collaboration Suite 10g を使用している場合、Oracle Beehive のコストはいくらになりますか。**

Oracle Beehive は、Oracle Collaboration Suite 10g のサポート対象製品アップグレードに相当し、ライセンスを移行できます。

**Oracle Collaboration Suite 10g の単一コンポーネント（カレンダー、コンテンツ・サービスなど）を使用しています。アップグレードはできますか？**

はい、アップグレードできます。Oracle Beehive は、記載されたサービスの部分的な配置をサポートしています。

**Oracle Beehive の価格について教えてください。**

最新の価格情報については価格表を参照してください。

**電子メールやカレンダーの使用は継続できますか。**

はい。Oracle Beehive は、電子メールやカレンダーを使用したアクティビティをサポートしています。また、インスタント・メッセージングなど個人のアクティビティやタスクをサポートしています。

**Microsoft Exchange と互換性はありますか。**

はい。Oracle Beehive には Microsoft Exchange との相互運用機能が含まれています。

**Microsoft Outlook のサポートは継続されますか。**

はい。Oracle Beehive には Microsoft Outlook のサポート機能が含まれています。Oracle Beehive がサポートするのは、MS Outlook 2000、2003、および 2007 です。

**Oracle WebCenter との関係はどのようなものですか。**

Oracle WebCenter は複合アプリケーションを構築するための包括的 UI フレームワークであり、Oracle Fusion Middleware に含まれます。Oracle Beehive は、そのまま使用できる完全なコラボレーション・インフラストラクチャです。Oracle

WebCenter で開発されたユーザー・インタフェースから Oracle Beehive のコラボレーション・サービスを利用できるため、Oracle WebCenter と Oracle Beehive を連携させることができます。

Oracle Beehive は Oracle WebCenter なしでも動作し、Oracle WebCenter は Oracle Beehive なしでも動作します。Oracle Beehive と Oracle WebCenter の両方を使用する場合、2つの Oracle テクノロジーを組み合わせることで、Oracle WebCenter の複合アプリケーション向け高機能 UI フレームワークを介して Oracle Beehive サーバーにアクセスし、より強固なソリューションを得られます。

#### **Oracle Universal Content Management との関係はどのようなものですか。**

Oracle Beehive は、完全なコラボレーション・インフラストラクチャ・ソリューションを提供する単一製品です。これには、コラボレーション・ワークスペースでドキュメントを保管および管理する機能が含まれます。ただし、Oracle Beehive は、エンタープライズ・コンテンツ管理ソリューションや戦略的 ECM ミドルウェアではありません。Oracle Universal Content Management (Stellent) と統合すると、完全なドキュメント管理ライフ・サイクルがサポートされます。

#### **Siebel や PeopleSoft などとの統合は計画されていますか。**

はい、計画されています。現在開発中の優れた機能を Oracle Applications から活用できるように、Oracle Applications チームと緊密な協力をおこなっています。また、より完全な API/Web サービス・インタフェースへの移行を現在進めているため、顧客の要望に応じてカスタム統合をおこなうことも可能になります。

#### **詳しい情報はどこから入手できますか。**

Oracle Beehive の関連資料については、[www.oracle.com/beehive](http://www.oracle.com/beehive) を参照してください。この Web サイトには Oracle Beehive の概要と、詳細情報へのリンクが含まれます。または、お電話 (+1.800.663.0973) でオラクルの担当者にお問い合わせください。

---

本書は、弊社の一般的な製品の方向性に関する概要を説明するものです。また、情報提供を唯一の目的とするものであり、いかなる契約にも組み込むことはできません。下記の事項は、マテリアルやコード、機能の提供を確約するものではなく、また、購買を決定する際の判断材料とはなりません。オラクルの製品に関して記載されている機能の開発、リリース、および時期については、弊社の裁量により決定いたします。



Oracle Beehive FAQ  
2008 年 12 月

Oracle Corporation  
World Headquarters  
500 Oracle Parkway  
Redwood Shores, CA 94065  
U.S.A.

海外からのお問い合わせ窓口：  
電話：+1. 800.633.0973  
ファクシミリ：+1.650.506.7200  
[www.oracle.com](http://www.oracle.com)

Copyright © 2008, Oracle. All rights reserved.

本文書は情報提供のみを目的として提供されており、ここに記載される内容は予告なく変更されることがあります。

本文書は、その内容に誤りがないことを保証するものではなく、また、口頭による明示的保証や法律による黙示的保証を含め、商品性ないし特定目的の適合性に関する黙示的保証および条件などのいかなる保証および条件も提供するものではありません。

オラクルは本文書に関するいかなる法的責任も明確に否認し、本文書によって直接的または間接的に確立される契約義務はないものとします。本文書はオラクル社の書面による許可を前もって得ることなく、いかなる目的のためにも、電子または印刷を含むいかなる形式や手段によっても再作成または送信することはできません。

Oracle、JD Edwards、および PeopleSoft は、米国 Oracle Corporation およびその子会社、関連会社の登録商標です。その他の名称はそれぞれの会社の商標です。